

令和5年度 水戸市観光審議会

日時：令和6年2月2日（金）午前10時～
会場：水戸市役所4階 政策会議室

次第

開 会

1 会長の選出

2 議事

議案第1号 水戸市観光基本計画〔第4次〕（素案）について

3 その他

閉 会

水戸市観光基本計画(第4次)

(素案)

水戸市

目次

第1章 計画策定の基本的事項	1
1 計画策定の趣旨.....	1
2 計画の位置付け.....	2
3 計画期間.....	2
第2章 現状と課題の整理	3
1 観光を取り巻く現状.....	3
2 現状・課題等の整理.....	8
第3章 計画の基本的方向	9
1 基本方針.....	9
2 計画の目標.....	9
3 施策の体系.....	10
第4章 施策の展開	11
1 選ばれる観光まちづくり.....	11
2 稼げる観光まちづくり.....	16
第5章 推進体制と進行管理	21
1 各推進主体の役割.....	21
2 進行管理.....	22

第1章 計画策定の基本的事項

1 計画策定の趣旨

令和2年以降の新型コロナウイルス感染症により、国内外の観光需要が大きく減少し、観光産業においても深刻な影響を受けましたが、コロナ禍を経て、人々のライフスタイルや価値観の変化とあわせ、旅行ニーズや観光動態が多様化している現状も考慮し、誘客と経済効果につながる観光施策を戦略的かつ計画的に展開していく必要があります。

現在、国では、「観光立国推進基本計画」（令和5年3月閣議決定）において、「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客促進」の三つをキーワードとする観光戦略に取り組んでおります。また、県では、「茨城県観光振興基本計画」（令和4年3月策定）において、観光の本格的な復興と個性を活かした持続可能な観光を基本理念とし、観光消費額とインバウンド宿泊者数の増加を目標に掲げ、観光振興施策を展開しています。

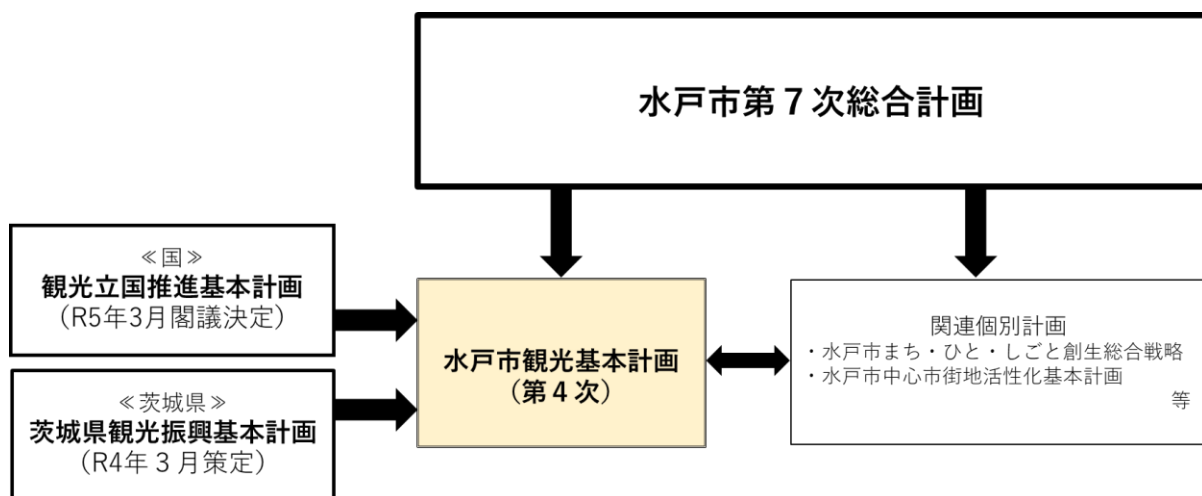
本市におきましても、国や県の計画との整合を図りながら、観光客数の増加及び観光消費の促進に向け、弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史的資源や、水戸市民会館をはじめとするコンベンション施設を活用した観光施策を一層推進していくことが重要です。

水戸市観光基本計画（第3次）については、計画期間が最終年度を迎えることから、水戸市第7次総合計画や関連個別計画との整合を図りながら、社会情勢の変化やSDGsの理念、本市を取り巻く課題を踏まえ、国・県とも連携し、戦略的かつ計画的に観光振興に資する施策を推進していくため、水戸市観光基本計画（第4次）を策定するものです。

2 計画の位置付け

本計画は、水戸市の最上位計画である水戸市第7次総合計画の関連個別計画の一つとして位置付けられ、他の関連個別計画と連携して推進するとともに、国の観光立国推進基本計画や茨城県観光振興基本計画との整合を図った計画とします。

図-1 【本計画の位置付け】



3 計画期間

本計画の期間は、2024（令和6）年度から2028（令和10）年度までの5年間とします。

なお、社会情勢の変化や国・県の動向を注視しながら、必要に応じて計画の見直しを行います。

第2章 現状と課題の整理

1 観光を取り巻く現状

(1) 国の動向

国では、少子化に伴う人口減少、高齢化が進行する中、ウィズコロナ・ポストコロナにおいても、観光を通じた国内外との交流人口の拡大の重要性に変わりはなく、観光は今後とも成長戦略の柱、地域活性化の切り札であるとして、「観光立国推進基本計画」を策定しています。国の計画では、新型コロナウイルス感染症で落ち込んだ観光の復活に向け、「持続可能な観光」、「消費額拡大」、「地方誘客推進」をキーワードに、これまで以上に質の向上を重視した観光へと転換を図るべく、以下の目標を設定し、各施策を推進することとしています。

目 標			
■ 早期達成を目指す目標：インバウンド消費5兆円、国内旅行消費20兆円			
■ 2025年目標（質の向上を強調し、人数に依存しない指標を中心に設定）			
持続可能な観光地域づくり	地域づくりの体制整備	① 持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数【新】	100地域
	インバウンド回復	② 訪日外国人旅行消費額単価【新】	20万円/人
		③ 訪日外国人旅行者一人当たり地方部宿泊数【新】	2泊
		④ 訪日外国人旅行者数	2019年水準超え
		⑤ 日本人の海外旅行者数	
	国内交流拡大	⑥ 国際会議の開催件数割合	アジア最大・3割以上
		⑦ 日本人の地方部延べ宿泊者数	3.2億人泊
		⑧ 国内旅行消費額	22兆円

資料：観光立国推進基本計画（第4次）[概要]/観光庁

(2) 県の動向

茨城県では、新型コロナウイルス感染症の影響により、社会経済情勢、旅行者の嗜好や行動が大きく変化する中、多様化する観光客のニーズに的確に対応し、観光の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、「茨城県観光振興基本計画」を策定しています。県の計画では、ポストコロナを見据えた観光の本格的な復興の実現と個性を活かし、世界を惹きつける、持続可能な「いばらき観光」を目指すことを基本理念に、①「安全・安心な観光地の形成」、②「おもてなし日本一に向けた基盤づくり」、③「国内外への情報発信の強化」、④「稼げる観光産業の振興と観光消費額の向上」、⑤「魅力ある観光地域づくり」、⑥「ポストコロナのインバウンド戦略」、⑦「地域の特性や全国的なイベントを活かした国内誘客促進」を基本方針として、以下の目標を設定し、各施策を推進することとしています。

【目標】

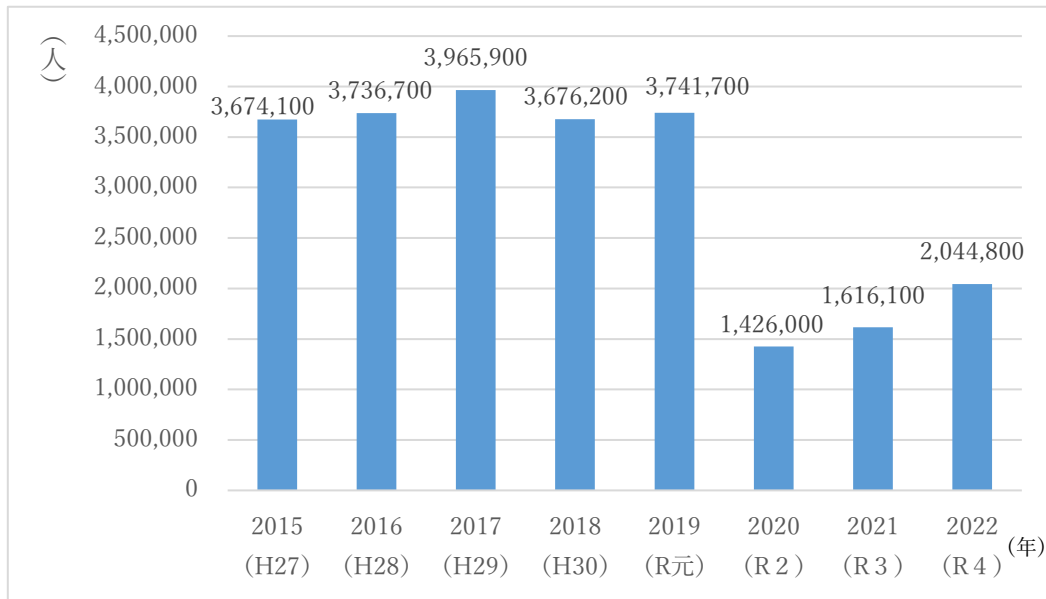
指標名	現状値(令和2年度)	目標値(令和7年度)
観光消費額	2,101億円	4,000億円
外国人延べ宿泊者数	52,520人泊	260,000人泊

資料：茨城県観光振興基本計画[概要]/茨城県

(3) 水戸市の現状

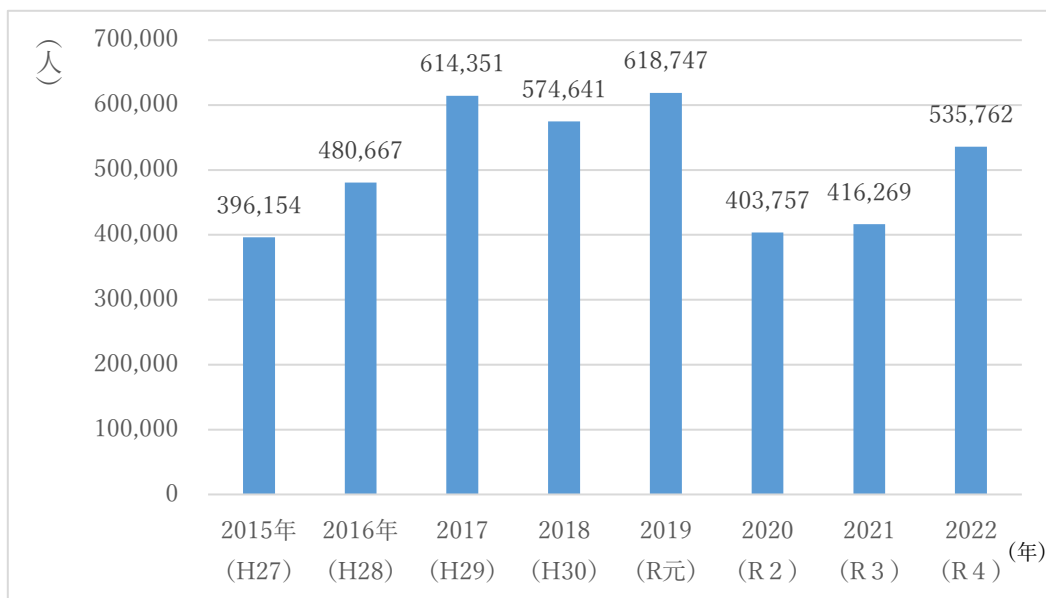
水戸市の観光入込客数は、2015（平成27）年以降、年間360～390万人台で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020（令和2）年には約143万人まで大幅に減少しました。また、宿泊者数についても、おおむね増加傾向で推移し、2019（令和元）年には約62万人、外国人の宿泊者数も約4.2万人を数えましたが、それぞれ減少しました。現在は、国や県による観光需要喚起策の効果等により、少しずつ回復の兆しが見えているところです。

図-2 【年別観光入込客数】



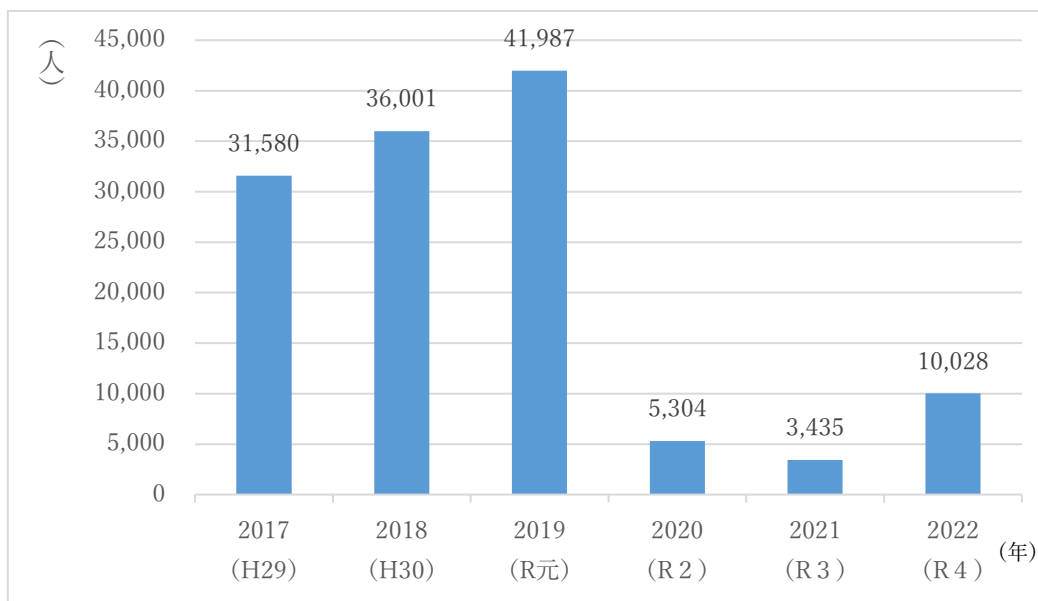
資料：観光客動態調査/茨城県

図-3 【水戸市宿泊者数】



資料：宿泊旅行統計調査/観光庁

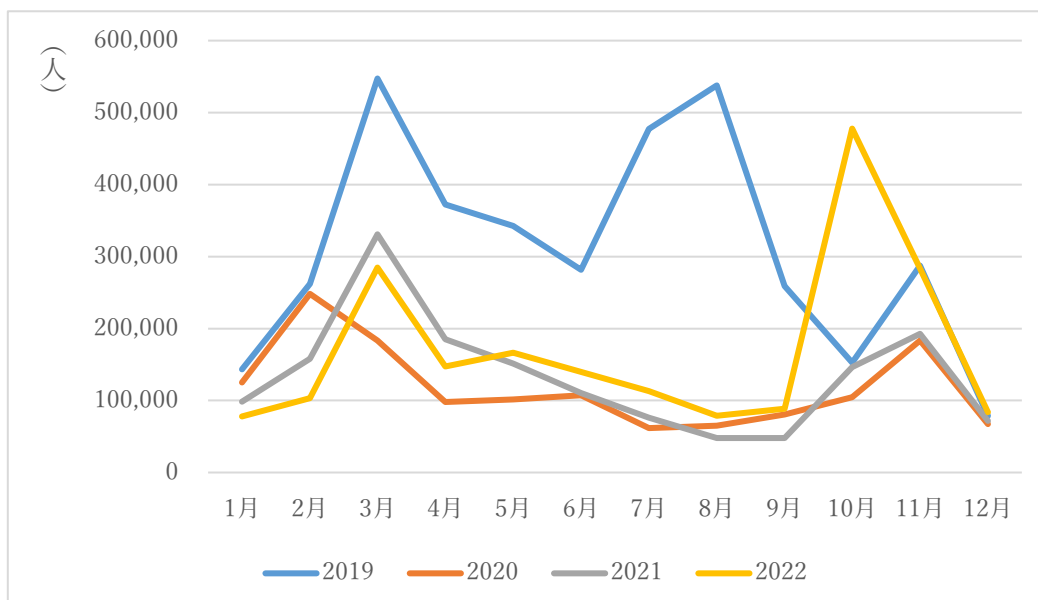
図-4 【外国人宿泊者数】



資料：宿泊旅行統計調査/観光庁

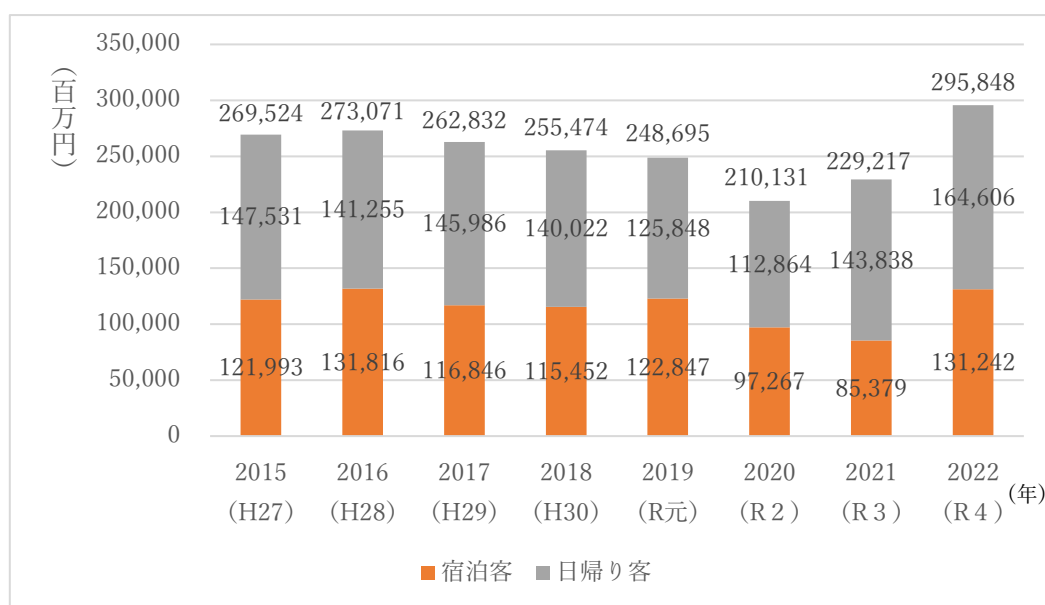
月別の観光入込客数については、本市の特徴として、梅まつりを開催する3月や水戸偕楽園花火大会及び水戸黄門まつりを開催する7、8月に多くなっています(2022(令和4)年の花火大会及び黄門まつりは10、11月に開催)。

図-5 【月別観光入込客数】



資料：観光客動態調査/茨城県

(参考)図-6 【茨城県観光消費額】



資料：観光客動態調査/茨城県

2 現状・課題等の整理

観光を取り巻く社会情勢等を踏まえ、本市における観光の現状・課題等について、誘客と経済効果の観点から、以下のとおり整理しました。

(1) 多様化するニーズへの対応

全国的に人口の減少が進む中、観光振興による地域経済の活性化を図るため、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ観光客数をコロナ禍前の水準まで回復させ、さらに増加につなげることが求められています。

梅まつり等特定の時期に偏らない通年型観光の推進に引き続き取り組むとともに、価値観や個人のライフスタイルの変化などに伴う「見物」・「団体」型の旅行から「体験」・「個人」型の旅行の増加など、旅行目的や形態が変化している観光ニーズに柔軟に対応していかなければなりません。

そのため、今後の観光振興においては、多様化するニーズを的確に捉えながら、水戸ならではの観光資源を生かし、戦略的かつ効果的な取組を展開していく必要があります。

(2) 観光消費拡大の必要性

観光振興による地域経済の活性化の効果をより一層高めていくためには、誘客促進策とあわせ、訪れた方の消費を促していくことも重要です。

茨城県の調査（2022（令和4）年）によると、本県における観光客一人当たりの観光消費額について、宿泊旅行（29,372円）は、日帰り旅行（5,244円）のおよそ6倍の消費をもたらしています。

また、観光庁の調査によると、訪日観光が再開したインバウンドについては、2023（令和5）年7-9月期の訪日外国人旅行消費額がおよそ1兆4千億円とコロナ禍前以上の水準になっています。

そのため、経済効果の高い宿泊者数の増加をはじめ、観光資源間の回遊性を高めることで市内での滞在時間を増やすとともに、国内の人口減少が進行する中で重要性を増すインバウンドの誘客も推進しながら、飲食や宿泊、土産品購入など、観光消費につながる取組を展開していく必要があります。

第3章 計画の基本的方向

1 基本方針

国・県の計画や水戸市第7次総合計画等を踏まえ、次に掲げる二つの基本方針を定めます。

基本方針1 選ばれる観光まちづくり

観光客をはじめ、多くの方に選ばれるまちを実現するため、水戸ならではの歴史、文化、自然等観光資源の更なる魅力向上を図るとともに、それらを活用した戦略的なプロモーションに取り組みます。また、快適な滞在に資する受入体制の強化を図ります。

基本方針2 稼げる観光まちづくり

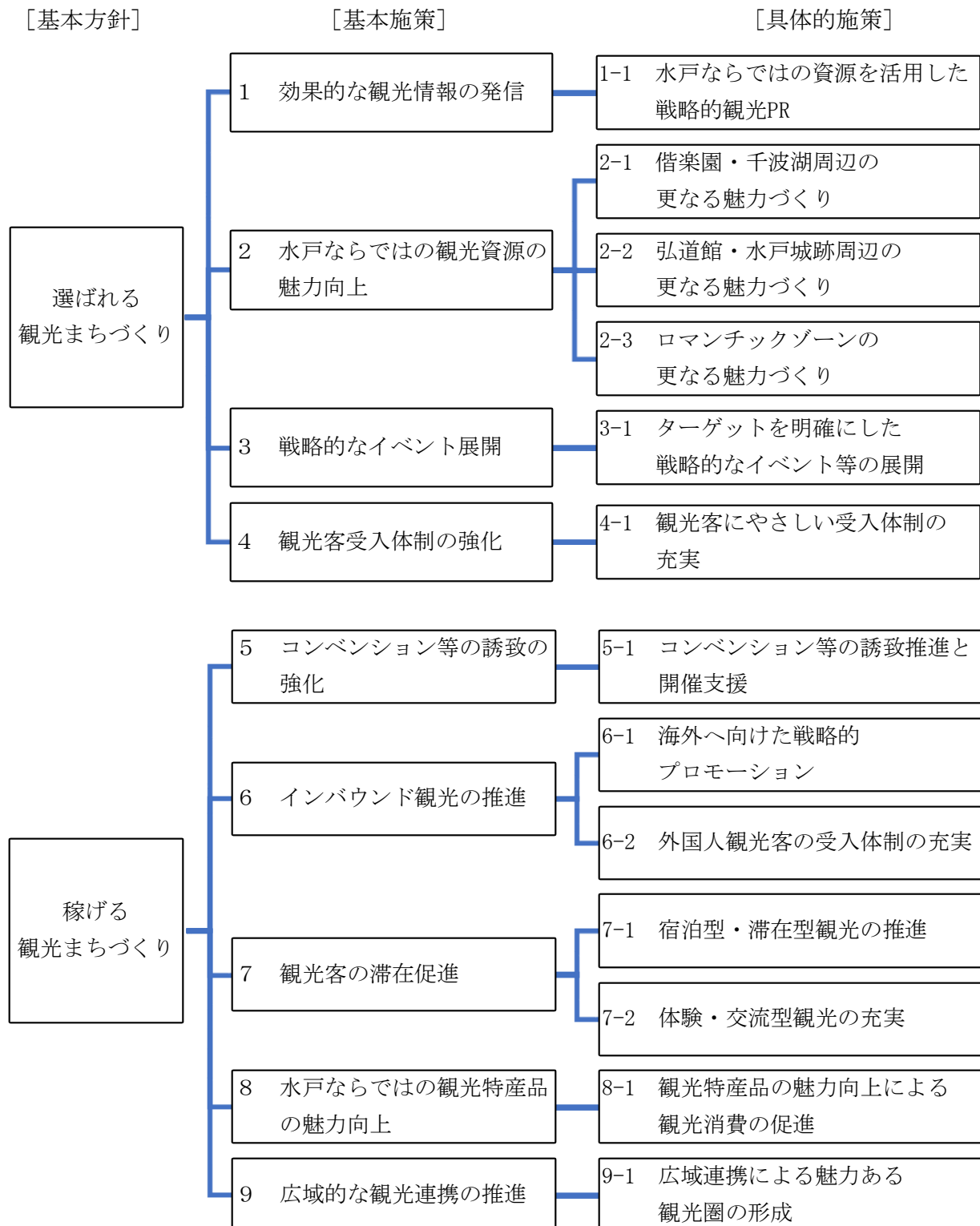
来訪者の消費を促進し、経済の活性化につなげるため、事業者とも連携しながら、インバウンド観光やコンベンション等の誘致を推進します。また、滞在時間の延長を図るため、宿泊型・滞在型観光を推進するとともに、県内外の自治体との広域連携を強化します。

2 計画の目標

計画の二つの基本方針については、次のとおり四つの目標を設定します。

目標	現況 (2022 (令和4) 年)	目標値 (2028 (令和10) 年)
観光入込客数	2,044,800 人	3,775,000 人
宿泊者数	535,762 人	560,000 人
外国人宿泊者数	10,028 人	37,000 人
観光消費額	136 億円	200 億円

3 施策の体系



第4章 施策の展開

基本方針 1

選ばれる観光まちづくり

基本施策 1 効果的な観光情報の発信

【現状と課題】

本市では、他自治体と差別化を図るため、「水戸ならではの」を生かしたイメージ戦略をはじめ、HP、SNS等による様々な手法を用いた情報発信に取り組んでいます。

しかしながら、スマートフォンやSNSの普及以降、観光客等の情報収集の方法も変化し、多様化していることから、ターゲットを明確にするとともに、時代の変化に対応しながら、それぞれの情報発信手法の特性を生かした、効果的かつ戦略的な情報発信に取り組む必要があります。

具体的施策1-1 水戸ならではの資源を活用した戦略的観光PR

本市の歴史や文化、食など、水戸ならではの資源を最大限に活用するとともに、ターゲットを明確にした上で、SNSや動画など、多様な情報発信手法を用いて、戦略的に情報発信します。

また、旅行者のニーズが多様化している中で、多くの観光客から旅行先として選ばれるよう、人流データ等の収集・分析を行い、本市を訪れる観光客の動態等の把握に努め、効果的な観光施策を展開します。

主な事業	事業主体
・ 歴史的資源、花火、納豆や水府提灯等の特産品を活用したブランディング ・ 様々な手法を用いた効果的な情報発信 ・ 人流データ等の解析による効果的な観光施策の立案	市、市観光コンベンション協会、事業者、市民

基本施策2 水戸ならではの観光資源の魅力向上

【現状と課題】

水戸徳川家ゆかりの地である本市を代表する観光拠点として、歴史や豊かな自然を有する「偕楽園・千波湖周辺地区」、水戸城大手門や二の丸角櫓等の水戸城歴史的建造物の復元整備が完了した「弘道館・水戸城跡周辺地区」、保和苑や水戸八幡宮等の歴史的資源を有する「保和苑周辺地区（ロマンチックゾーン）」の三つの地区があります。

今後、観光振興を一層図っていくためには、民官連携のもと、これらの地区を中心に、通年で多くの観光客等呼び込み、滞在時間を少しでも長く楽しんでいただけるよう、様々なまつり・イベントの開催やブランド力の向上につながる取組等も行いながら、各地区の更なる魅力づくりを推進していく必要があります。

具体的施策2-1 偕楽園・千波湖周辺の更なる魅力づくり

偕楽園・千波湖周辺地区は、県のパークPFI事業により、令和5年5月に迎賓機能を備えた「The 迎賓館 偕楽園 別邸」が開業されたところであり、また、今後予定されている市のパークPFI事業により、同地区の魅力が更に高まり、県内外から多くの集客が見込まれます。

このため、事業者や観光関連団体等と連携・協力しながら、通年で多くの観光客等呼び込み、滞在時間の延長につながるよう、本市を代表する梅まつりや水戸偕楽園花火大会の充実、民間活力を活用したイベントの創出等に取り組むとともに、観光地としてのブランディングを推進します。

主な事業	事業主体
・梅まつりをはじめ年間を通した民官連携イベントの充実 ・朝型・夜型イベントの充実	市，市観光コンベンション協会，事業者

具体的施策2-2 弘道館・水戸城跡周辺の更なる魅力づくり

弘道館・水戸城跡周辺地区は、日本遺産の構成文化財である弘道館をはじめ、復元整備が完了した水戸城大手門や二の丸角櫓など、数多くの歴史的資源を有しています。

このため、地元住民や事業者等と連携・協力しながら、同地区内の資源を最大限活用するとともに、中心市街地に位置する利点を生かしながら、通年で多くの観光客等呼び込み、滞在時間の延長にもつながるような各種イベントの開催等に取り組みます。

主な事業	事業主体
<ul style="list-style-type: none">・民官連携による年間を通したにぎわいづくり・朝型・夜型イベントの充実	市，市観光コンベンション協会，事業者

具体的施策2-3 ロマンチックゾーンの更なる魅力づくり

保和苑周辺地区（ロマンチックゾーン）は、本市で唯一の万葉の遺跡である曝井きらしいや国指定重要文化財である水戸八幡宮など、訪れる人々が安らげる貴重な緑や湧水とともに、数多くの歴史的資源を有しています。

このため、同地区内には学校が多いという地域の特性等を踏まえ、近隣学校や地元商店会等と連携・協力しながら、あじさいまつりの充実をはじめ、若い世代を呼び込む取組や地区内を回遊したくなる取組を実施します。

主な事業	事業主体
<ul style="list-style-type: none">・あじさいまつりの充実・近隣学校等と連携した若い世代を呼び込む取組の推進	市，事業者，市民

基本施策3 戦略的なイベント展開

【現状と課題】

本市では、梅まつりや黄門まつりをはじめ、年間を通した四季折々のまつり・イベントを開催しています。

今後、更なる誘客促進を図るためには、多様化するニーズやトレンドの把握に努めながら、水戸ならではのコンテンツの充実を図りつつ、外国人観光客はもちろん、若い世代にも選ばれる、まつり・イベントを開催する必要があります。

具体的施策3-1 ターゲットを明確にした戦略的なイベント等の展開

まつり・イベントの開催に当たっては、各まつりの特性等に応じてターゲットを明確にした上で、水戸ならではの歴史、文化、食、体験などのコンテンツを活用しながら、各種まつり・イベントの充実を図ります。

また、バラエティに富んだイベントを開催するほか、どのまつり・イベントにおいても、若い世代が訪れ、参加したくなるようなコンテンツの充実を図るとともに、花火やライトアップ等の夜の催しを組み合わせるなど、滞在時間の延長につながる取組も実施し、年間を通じた誘客促進、消費拡大を図ります。

主な事業	事業主体
<ul style="list-style-type: none">・バラエティに富んだイベントの開催・若い世代を呼び込めるイベントの開催・各種まつりの充実	市，市観光コンベンション協会，事業者

基本施策4 観光客受入体制の強化

【現状と課題】

本市では、市民や事業者、ボランティア団体等と連携しながら、観光客のおもてなしに取り組んでいます。

本市を訪れた観光客の更なる満足度の向上及びリピーターの獲得のためには、民官の適切な役割分担や観光案内の充実を図るなど、行政にとどまらず、事業者や水戸観光コンベンション協会等が一体となって、受入体制を強化していく必要があります。

具体的施策4-1 観光客にやさしい受入体制の充実

観光客が快適に旅行することができるよう、デジタル技術を活用した案内機能の強化を図るとともに、観光客のニーズを捉えた誘導案内等のおもてなしに取り組めます。

主な事業	事業主体
<ul style="list-style-type: none">・ 民間活力の活用による観光ボランティアの強化・ 優良タクシー乗務員認定事業の推進・ 観光案内所の機能強化	市，観光関連団体，事業者，市民

基本施策5 コンベンション等の誘致の強化

【現状と課題】

水戸観光コンベンション協会が中心となり、民官連携のもと、コンベンション等の誘致、支援活動に取り組んでいます。

令和5年7月の水戸市民会館の開館により、これまで水戸市での開催が難しかった大規模なコンベンション等の誘致にも成功しており、コンベンションによる観光消費を拡大させていくため、引き続き、積極的な誘致活動及び開催支援に取り組んでいく必要があります。

【具体的施策5-1】 コンベンション等の誘致推進と開催支援

観光消費を更に拡大させていくため、水戸市民会館をはじめとするコンベンション施設を活用した誘致活動に積極的に取り組みます。

また、コンベンション開催支援の充実のほか、事業者等の協力をいただきながら、水戸ならではの特別感を感じられるユニークベニュー¹等を活用したおもてなしの開発・強化にも取り組みます。

主な事業	事業主体
<ul style="list-style-type: none"> ・ コンベンションをはじめ MICE²誘致の推進 ・ コンベンション開催支援の充実 ・ 水戸ならではのアフターコンベンション³の支援 	市，市観光コンベンション協会，事業者

¹ ユニークベニュー：歴史的建造物，文化施設や公的空間等で，会議・レセプションを開催することで，特別感や地域特性を演出できる会場。

² MICE: Meeting (企業等の会議)，Incentive travel (企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行))，Convention (全国・国際規模の大会や会議)，Exhibition/Event (展示会・見本市，イベント)の頭文字をとった造語で，これらビジネスイベントの総称。

³ アフターコンベンション：コンベンションの後の催しや懇親会。代表的なものとして，参加者及び同伴者のためにコンベンションプログラムの一部として計画され，開催地の観光地を巡るエクスカーションツアー等がある。

基本施策6 インバウンド観光の推進

【現状と課題】

地域経済の活性化に大きく寄与するインバウンド観光の推進に向け、水戸市インバウンド推進機構（事務局：水戸観光コンベンション協会）において、事業者の参画をいただきながら、プロモーションと受入体制の充実に取り組んでいます。

観光消費拡大に向けては、これまで以上に多くの外国人観光客の誘客が必要であることから、国・県との連携等のもとより、民官一体となった誘客活動を推進するとともに、外国人観光客の目線から魅力あるコンテンツの創出も検討していく必要があります。

具体的施策6-1 海外へ向けた戦略的プロモーション

外国人観光客の誘客に向け、ホームページをはじめとする情報発信媒体を積極的に活用しながら、国や県と連携した営業活動など、戦略的な観光プロモーションを実施します。

主な事業	事業主体
<ul style="list-style-type: none">・ SNS等の活用によるターゲットを絞った戦略的プロモーションの展開・ 国内外における営業活動	市，市観光コンベンション協会，事業者

具体的施策6-2 外国人観光客の受入体制の充実

インバウンドセミナー等を通じた事業者の機運醸成を図りながら、外国人観光客のニーズに対応した分かりやすい観光案内やコンテンツの創出・磨き上げに取り組むなど、受入体制の充実に努めます。

主な事業	事業主体
<ul style="list-style-type: none">・ 多言語対応の強化による受入体制の充実・ インバウンドセミナーやモニターツアー等の実施	市，市観光コンベンション協会，事業者

基本施策7 観光客の滞在促進

【現状と課題】

本市は、偕楽園や弘道館など、恵まれた観光資源を有しながらも、その連動性が低いために、観光客の滞在時間が短く、日帰り観光客の割合が大半を占めることから、回遊性を高める取組や体験プログラムの充実等により、宿泊型・滞在型観光への転換を図ってきたところです。

今後も、経済効果の高い宿泊旅行を増加させていくことが、観光消費の拡大に有効であることから、より効果的に宿泊や滞在につながる観光施策を展開していく必要があります。

具体的施策7-1 宿泊型・滞在型観光の推進

宿泊型・滞在型観光を推進するため、県や事業者等との連携を図りながら、夜間に観光施設等を巡るツアーや夜のまち歩きイベントなどの夜型イベントを開催するとともに、夜の飲食店の情報発信に努め、地域経済の活性化を図ります。

また、観光漫遊バスの運行、シェアサイクルやレンタサイクルの取組等を通じて、観光施設の連動性を高め、回遊性を強化します。

主な事業	事業主体
・ ナイトツーリズムの推進 ・ 観光施設間の回遊性の強化	市，市観光コンベンション協会，事業者

具体的施策7-2 体験・交流型観光の充実

地域の人々の生活や歴史，文化を体感するといったここにしかないものへのニーズが高まっていることから、インバウンド観光も意識しながら、本市の有する地域資源を活用した水戸ならではの体験プログラムの付加価値向上等に取り組みます。

主な事業	事業主体
・ 体験プログラムの高付加価値化 ・ 事業者との連携による新たな体験プログラムの創出	市，市観光コンベンション協会，事業者

基本施策8 水戸ならではの観光特産品の魅力向上

【現状と課題】

本市では、納豆をはじめ、地酒や水戸市優良観光土産品など、水戸ならではの観光特産品を活用した魅力発信に取り組んでいます。

今後、更なる観光消費の拡大につなげていくためには、事業者や観光関連団体等と連携し、既存の観光土産品の付加価値向上や、新たな土産品の発掘・創出による魅力向上を図る必要があります。

具体的施策8-1 観光土産品の魅力向上による観光消費の促進

水戸市優良観光土産品の付加価値向上に取り組むとともに、本市土産品の更なる魅力向上のため、事業者や水戸観光土産品協会等の協力も得ながら、物産展の開催や新たな観光土産品の開発等に取り組めます。

主な事業	事業主体
<ul style="list-style-type: none">・土産品セレクションの創設等による観光土産品の魅力向上・物産展等の開催・事業者との連携による新たな観光土産品の開発	市，観光関連団体，事業者

基本施策9 広域的な観光連携の推進

【現状と課題】

いばらき県央地域観光協議会等の広域連携組織において、圏域の自然，歴史，食，体験などの魅力ある資源をつないだ観光プロモーションや周遊施策の実施に取り組んでいます。

今後，圏域への誘客を更に進めていくためには，多様化する観光客のニーズに応えられるよう，周辺市町村等との連携を強化し，それぞれが有する特色豊かな観光資源の魅力を高める必要があります。

具体的施策9-1 広域連携による魅力ある観光圏の形成

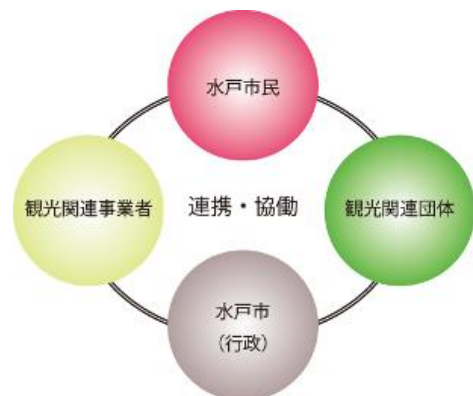
いばらき県央地域観光協議会や水戸・笠間・大洗・ひたちなか観光協議会はもちろんのこと，県内外の自治体とも連携を図りながら，広域連携のメリットを生かした観光プロモーションやイベント等を展開し，広域的な誘客及び周遊の促進を図ります。

主な事業	事業主体
・ 広域周遊観光の推進 ・ 茨城空港，茨城港を玄関口とした誘客促進 ・ 都市間ネットワークを活用した魅力発信	市，市観光コンベンション協会，構成市町村

第5章 推進体制と進行管理

1 各推進主体の役割

本計画を推進していくためには、市民、観光関連事業者、観光関連団体、行政（水戸市）の各主体の役割を明確にし、相互の連携を図りながら一体となって取り組んでいく必要があります。



(1) 市民の役割

- ・水戸市民は、水戸を愛し、水戸の魅力を支える真の主体として、郷土の歴史や文化、自然等に対する理解を深めるとともに、誇りを持って紹介・案内できるよう努めます。
- ・おもてなしの心を持って観光客を迎え、交流を深めるよう努めます。
- ・地域の歴史や文化、自然等に愛着を持ち、地域の美観維持など、一層の魅力向上や地域の活性化に努めます。

(2) 観光関連事業者の役割

- ・観光関連事業者は、魅力ある商品づくりと質の高いサービス提供に努めます。
- ・事業者相互の連携を図りながら、観光による地域経済の活性化を図ります。
- ・地域観光の最前線で観光客と接することを強く意識し、おもてなしの心あふれる接客サービスを提供できる人材を育成します。

(3) 観光関連団体の役割

- ・NPOやボランティア団体をはじめ、水戸商工会議所等、観光に関わる団体は、地域に根ざした活動を通して、魅力づくりや様々な観光交流の取組に努めます。
- ・特に、水戸観光コンベンション協会は、本市の観光振興はもとより、コンベンション等の誘致やインバウンド観光の推進において、中心的な役割を担う団体であることから、魅力発信、誘客促進のための事業を積極的に展開するよう努めます。
- ・観光に関わる様々な主体の連絡調整や連携を進め、効果的・効率的な観光振興を図ります。

(4) 水戸市(行政)の役割

- ・水戸市(行政)は、市民、観光関連事業者、観光関連団体と協働し、さらに、国、県、周辺市町村等との連携・調整を図りながら、観光振興施策を展開します。
- ・観光情報の収集、分析、提供を行います。
- ・各主体が自主的に行う活動に対する支援を行います。

2 進行管理

本計画の進行管理は、関係機関、団体の役職員及び学識経験者で構成する「水戸市観光審議会」での議論を踏まえて行い、各施策における具体的な事業の実施状況の把握や検証に基づき、必要に応じて改善を図ります。

また、様々な社会情勢の変化等を踏まえ、基本施策や主な事業等の見直しを行っていくこととします。

**水戸市観光基本計画（第4次）
（素案）**

令和 年 月 日

水戸市産業経済部観光課

水戸市観光基本計画（第4次）（素案）に対する意見への対応

番号	指摘箇所	内容（意見・訂正等）	対応方針
1	P.9	<p>■2 計画の目標 外国人宿泊者数について</p> <p>・令和10年に3倍となっておりますが、宿泊施設の部屋数は十分なのでしょうか。</p>	<p>外国人宿泊者数の目標値（令和10年：37,000人）については、素案P.6図-4のグラフのとおり、新型コロナウイルス感染症流行前の実績値を目指しているものであります。具体的な数値は、県と整合を図るため、県の計画における本県の外国人宿泊者数の伸びから本市の外国人宿泊者数を導きだしています。</p> <p>本計画では、観光客の滞在促進を基本施策とし、宿泊型・滞在型観光を推進していくこととしていることから、今後とも、宿泊施設等事業者のご意見等を踏まえつつ、民官一体となって、外国人観光客を含む受入体制の充実をはじめ、各事業に取り組んでまいります。</p>
2	P.10 ～	<p>■農業は水戸の基幹産業ではないが農産国茨城の中心であり、宿泊客は食事食材に対する期待は大きいです。特に常陸牛、鮎鱈、県産農産物、地酒等は好評を頂いており、施策の展開の中でイベント、体験、インバウンド、特産品、に対しては既に食は織り込み済みとの考えだとは思われますが、もう少し掘り下げた表現でメニューの造成やイベントの開催のワードを盛り込んではいかがでしょうか？</p>	<p>「食」については、大学生向けアンケート「旅行において重視するもの」の回答にて、観光スポットに次いで期待されているものであり、また、事業者向けアンケート「おすすめしていくべき観光資源【物産】」の回答でも、常陸牛やあんこう料理は上位であることから、ご指摘のとおり、水戸ならではの豊富な食資源を様々な機会を活用していくことは重要であると認識しております。</p> <p>ご質問のメニュー造成といった詳細な事業内容については、本計画の具体的施策「水戸ならではの資源を活用した戦略的観光PR」や「水戸ならではの観光特産品の魅力向上」の事業の一つとして、3か年実施計画への位置付け、予算化していく中で検討していくこととし、飲食店をはじめとする事業者等の協力をいただきながら進めてまいります。</p>

番号	指摘箇所	内容（意見・訂正等）	対応方針
3	P. 11	<p>■具体的施策 1-1 水戸ならではの資源を活用した戦略的観光PRについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年型観光客数の増加を図るため、みとフィルムコミッションと連携して市内の撮影収録予定や撮影現場を、SNSを活用して広く情報提供を行ってはどうか。また、年代別を視野に入れた「ロケ地を巡るツアー」を企画し、移動時でも有効活用してロケ作品の収録シーンやクライマックスシーンを放映することや本市の歴史・文化に触れたり、食を重点的に組み入れた観光PRを行ってはどうか。 	<p>これまでも、ロケ地についての情報提供や撮影支援、ツアー実施の取組を行ってきたところであり、市ホームページ等により情報発信しております。</p> <p>人気作品のロケ地については「聖地化」されるなど、注目度が高まり、都市の魅力や認知度の向上にもつながることから、ご意見も踏まえ、引き続き、所管課とも連携しながら、SNS等様々な媒体を活用し、ロケ地をはじめとするフィルムコミッション関連情報等を積極的に発信してまいります。</p>
4	P. 11	<p>■具体的施策 1-1 水戸ならではの資源を活用した戦略的観光PRについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えばTikTokを使用し流行の楽曲（例：Ado 唱）で、水戸市内の観光名所をバックに水戸黄門ご一行が踊るなど、若い人・海外向けのアピールになるのではないかと思います。 	<p>大学生向けアンケート「観光情報を調べる時に利用するもの」の回答でもInstagram, TikTok を利用している割合が多く、SNSを活用していくことは重要であると認識しております。</p> <p>ご意見の流行りや話題性のある媒体を活用した情報発信については、今後、具体的施策の事業の一つとして、3か年実施計画への位置付け、予算化していく中で検討していくこととし、観光関連団体等の協力もいただきながら取り組んでまいります。</p>
5	P. 12	<p>■具体的施策 2-1 偕楽園・千波湖周辺の更なる魅力づくりについて</p> <p>偕楽園を造られた斉昭公の思いに沿ったイベントの開催はいかがでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偕楽園で敬老会 ・偕楽園でランチ会（お茶会）等 ・千波湖のライトアップジョギングと朝ヨガ 	<p>偕楽園や千波湖周辺においては、これまでも梅まつり等における野点茶会や千波湖でのライトアップジョギング等を実施あるいは支援するなど、水戸観光コンベンション協会や水戸商工会議所等とともに、地区の魅力づくりを推進してきたところであります。</p> <p>ご提案の斉昭公関連のイベント開催については、民官連携イベントの充実につながるものであることから、今後、具体的施策の事業の一つとして、3か年実施計画へ位置付け、予算化していく中で検討していくこととし、観光関連団体等の協力もいただきながら取り組んでまいります。</p>

番号	指摘箇所	内容（意見・訂正等）	対応方針
6	P. 12, 13	<p>■具体的施策 2-1, 2-2 偕楽園・千波湖周辺の更なる魅力づくり, 弘道館・水戸城跡周辺の更なる魅力づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偕楽園（南門, 吐玉泉料金所のあり方), 弘道館（二の丸大手門, 角櫓整備に伴う, 弘道館案内との連携） <p>これまで協議してきたことがあれば教えてほしい。茨城県との連携は必要不可欠で, これからも県と意見を共有し, 改善すべき事は協議を進めてほしい。</p>	<p>偕楽園については, 現在, 県の意向を踏まえ, 県が推奨している表門からの入園を案内しているところではありますが, 梅まつりをはじめ, 多くの観光客を誘客する場合においては, 来園者の利便性を考慮し, 南門や吐玉泉の料金所も利用できるよう, 県に対する働きかけを行ってきております。</p> <p>また, 弘道館周辺地区においても, 二の丸角櫓等施設の利用時間を延長するなど, 催事ごとに施設管理者との協議を実施しているところでもあります。</p> <p>ご指摘のとおり, 両地区の魅力づくりにおいては, 偕楽園や弘道館の管理者である県との連携は不可欠であることから, 引き続き, 本市を訪れる方々の利便性や満足度の向上につながるよう, 県への働きかけや情報共有に取り組んでいくとともに, 市施設管理者との協議も実施してまいります。</p>
7	P. 13	<p>■具体的施策 2-2 弘道館・水戸城跡周辺の更なる魅力づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水戸城跡の歴史的景観を利用した通年型のイベントを官民共同で創り上げる。 <p>特にインバウンドに特化したイベントが好ましいと思います。</p>	<p>弘道館・水戸城跡周辺においては, 梅まつりにおける「夜・梅・祭」や「水戸学文化祭」など, 観光関連団体や地元関係者とともに, 弘道館や水戸城大手門等歴史的資源を活用した様々なイベントを開催してきたほか, 地区の魅力向上や誘客促進を目的とした補助制度を創設し, 民間主体イベントの開催支援にも取り組んでいるところでもあります。</p> <p>当地区の更なる魅力づくりを進めていくためには, ご意見のとおり, 民間連携による取組が重要であると考えていることから, 引き続き, インバウンド観光の視点も取り入れながら, 具体的施策の事業の一つとして, 3か年実施計画へ位置付け, 予算化していく中で検討し, 民官一体となって推進してまいります。</p>

番号	指摘箇所	内容（意見・訂正等）	対応方針
8	P. 13	<p>■具体的施策 2-3 ロマンチックゾーンの更なる魅力づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保和苑あじさいまつり時、近隣の高校生が自作の和菓子販売をしていました。「わくわく協働事業」を知ってもらい、参加しやすくなるのではと思いました。市行政間の連携による事業を進めるのも良いと思います。 	<p>ご意見を踏まえ、所管課を中心に「協働事業提案制度（わくわくプロジェクト）」の更なる周知を図ってまいります。</p> <p>また、大学生向けアンケート「同世代を呼ぶために充実させるべき点」の回答において、あじさいまつりでは「写真映えするような食べ物やスポット」との意見があったことから、引き続き、近隣の学校等と連携しながら、スイーツ等若い世代向けの食資源の開発・販売に取り組むなど、保和苑周辺地区の魅力づくりを進めてまいります。</p>
9	P. 15	<p>■具体的施策 4-1 観光客にやさしい受入体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な「やさしさ」をお示し頂きたいと思います。 ・旅でのやさしさ、とは旅行者が「ストレスなく目的が達成できる」事かと思います。一番は目的地にスムーズにたどり着く事と思いますが、水戸はこの点が非常に難しいと感じています。 	<p>具体的な「やさしさ」については、水戸を訪れた方々が心地よく滞在していただけるよう、本施策の中で「わかりやすい」や「思いやり」といった意味で取り扱っております。</p> <p>ご意見のとおり、観光客がストレスなく目的地にたどり着くことは、旅の満足度を高め、再び水戸を訪れるきっかけにもつながるものと考えられます。そのため、快適に楽しく本市を観光していただけるよう、事業者や観光関連団体等と一体となって、受入体制の充実に資する各事業に取り組んでまいります。</p>

番号	指摘箇所	内容（意見・訂正等）	対応方針
10	P. 17	<p>■基本施策6 インバウンド観光の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド誘致が成功したとして、上記具体的施策4-1で質問しました「やさしさ」についての準備はいかがでしょうか。交通手段の明確化（韓国地下鉄等色分けで言葉がわからなくても非常にわかりやすい）、路線バスのアナウンスも同様に多言語でお願いしたいと常々感じています。 	<p>ご質問のわかりやすい案内表示や多言語対応といった「やさしさ」にもつながる受入体制の充実を図っていくためには、行政はもちろんのこと、交通等事業者や観光関連団体による主体的な取組も不可欠であると認識しております。</p> <p>現在、本市のインバウンド観光については、水戸市インバウンド推進機構を中心として、プロモーションと受入体制に関する取組を推進しているところであります。</p> <p>そのため、機構会員を含む事業者を対象としたセミナー等を実施し、外国人観光客の誘客や受入に関する情報を提供するとともに、店舗や商品等の多言語表示など、受入体制の強化につながる意識の醸成を図っていくこととしております。</p> <p>また、インバウンド観光に関する事業者向けアンケートでは、行政に対して、「観光案内の充実」を期待する割合が高いことから、機構の取組支援とあわせ、ご指摘のわかりやすい観光案内に資する事業を推進してまいります。</p>
11	その他	<p>■観光客からよく聞かれる意見として、お土産を買うところがないというのがあります。駅と偕楽園以外にはほとんど無いかと思いますので、街なかや各観光地周辺に売店等を増やすような施策が何かあればと思います。</p>	<p>土産品については、旅の思い出とあわせ、訪れた都市の魅力を伝えるものであり、本計画の基本方針の一つである“稼げる観光まちづくり”にもつながるものでもあることから、土産品の販売促進に資する取組は重要であると認識しております。</p> <p>ご質問の街なかや観光地周辺への売店等設置につきましては、土産品等事業者の協力が不可欠であることから、水戸観光コンベンション協会をはじめとする観光関連団体や商店会等の支援もいただきながら、事業者へ働きかけていくなど、観光特産品の魅力向上につながる取組の一つとして、今後、検討していきたいと考えております。</p>

番号	指摘箇所	内容（意見・訂正等）	対応方針
12	その他	<p>■水戸市では「地域おこし協力隊」の実践・活動はありますか （例：観光のまちおこし等）</p>	<p>水戸市における「地域おこし協力隊」の実践・活動としては、次世代を担う農業者の確保，育成を目的とし，市外からの移住，就農を希望する方を地域おこし協力隊員として，令和2年度から2名，今年度から1名任用しております。</p> <p>これまでの活動については，隊員はそれぞれ，ねぎ，果樹での就農を目指し，受入先の農家において農作業支援を通じた技術習得を図っております。</p>

水戸市観光基本計画(第4次)策定に係るアンケート調査結果

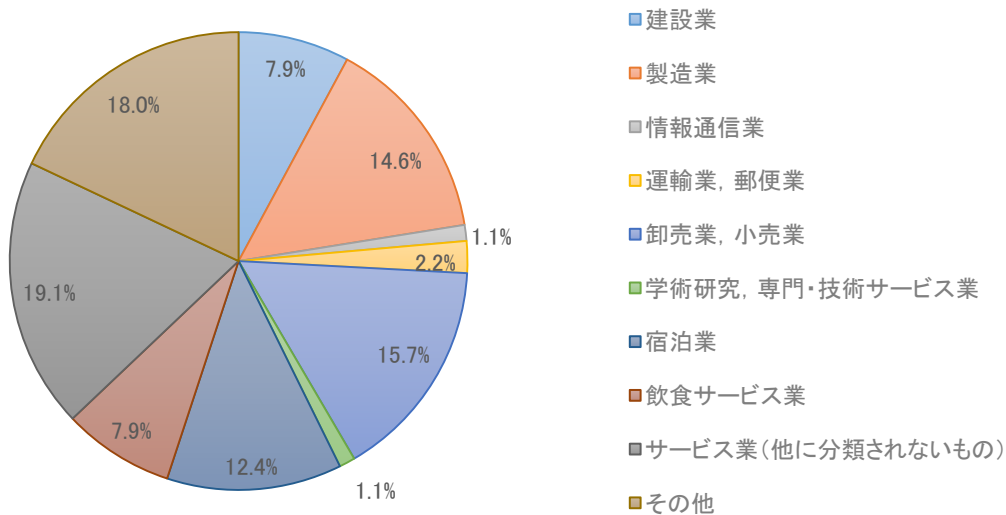
I 観光関連事業者向け調査

(1)調査概要

- 1 調査目的 観光関連事業者の今後の観光振興に関する意向等を把握し、水戸市観光基本計画(第4次)の基礎資料とする。
- 2 調査期間 令和5年11月20日(月)～12月7日(木)
- 3 調査方法 郵送, Web(回答は, Web 又は FAX)
- 4 調査対象者 水戸観光コンベンション協会会員 429 件
- 5 回収件数 89 件
- 6 回収率 20.8 %
- 7 記号の定義
 - n := 有効回答の総数(標本サイズ)
 - SA:= 単一回答の設問
 - MA:= 複数回答の設問(nの後ろに「:SA」または「:MA」と示すことで, アンケートの設問形式を区別することとする。)

(2) 調査結果概要

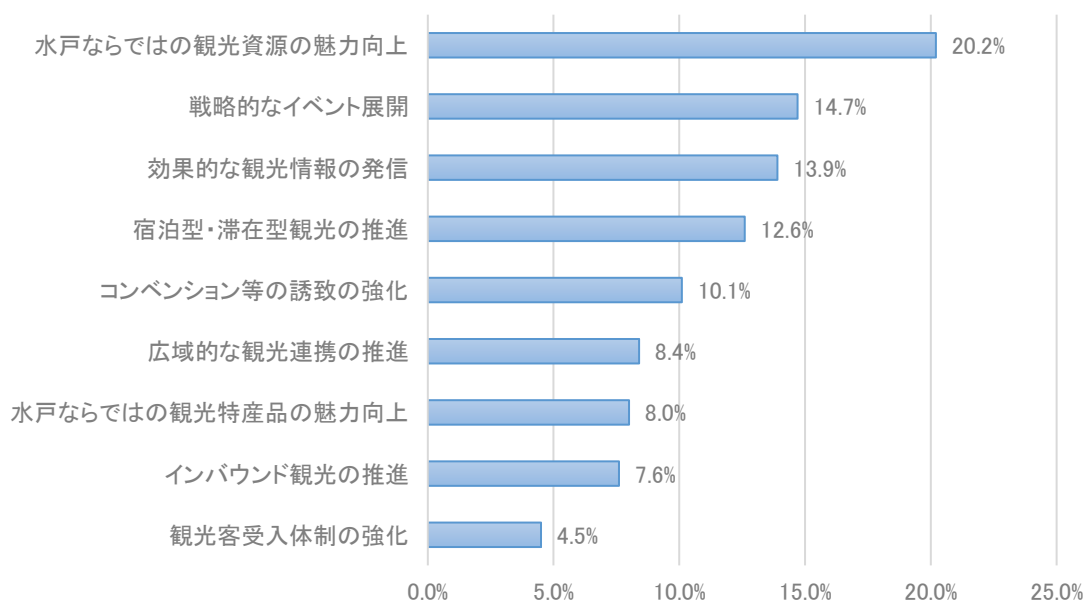
問1 貴事業所の業種についてご回答ください。



n=89:SA

問2 水戸市が観光振興で特に優先的に取り組むべきと思われる取組について教えてください。

「水戸ならではの観光資源の魅力向上」が 20.2%と最も多く、「戦略的なイベント展開」が 14.7%と次に多い。

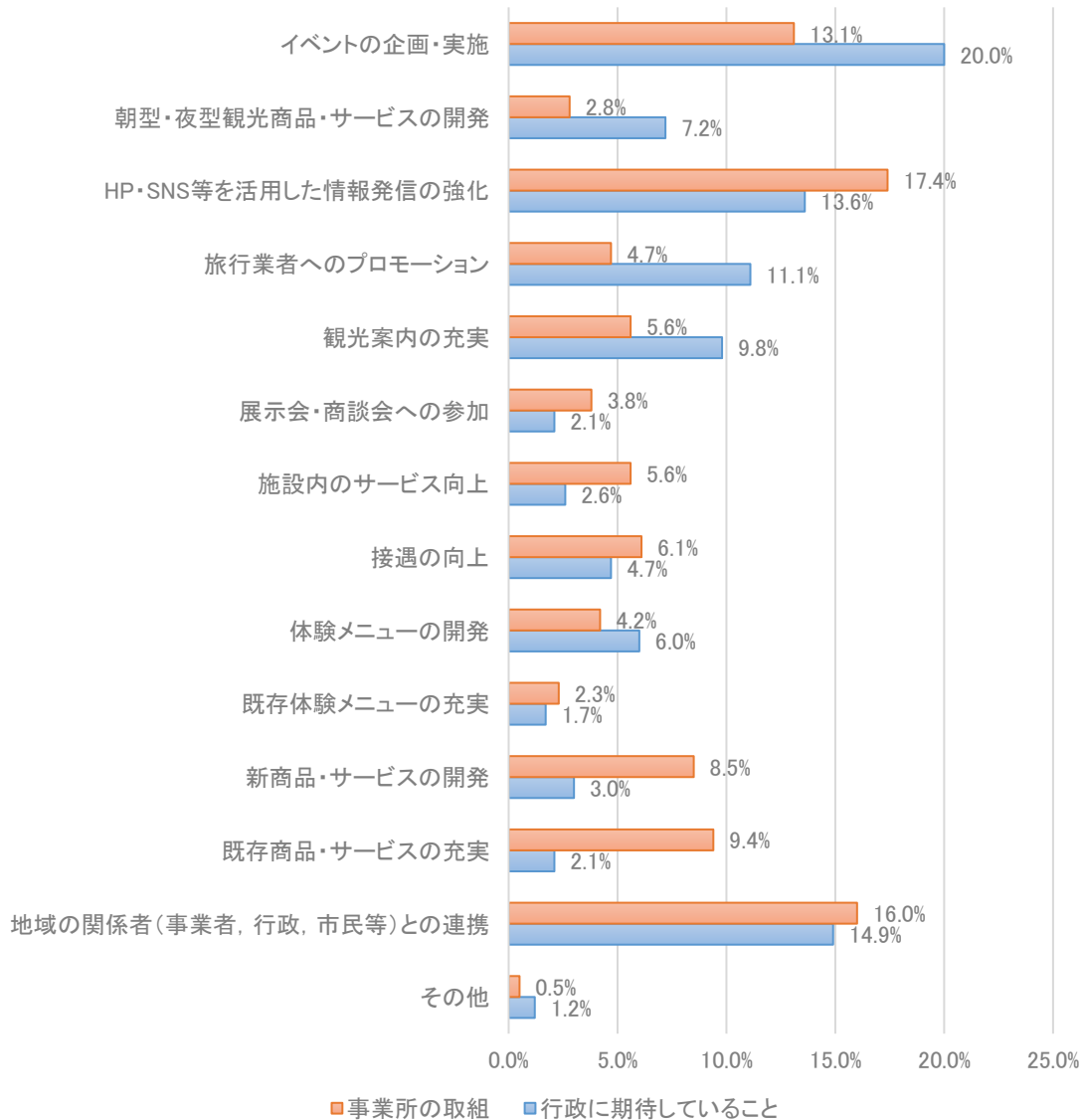


n=238:MA

問3 国内向けの観光振興において、貴事業所で取り組んでいること、行政に対して期待していることについて教えてください。

事業所で取り組まれていることとしては、「HP・SNS等を活用した情報発信の強化」が17.4%と最も多く、「地域の関係者(事業者, 行政, 市民等)との連携」が16.0%と次に多い。

また、行政に期待していることとしては、「イベントの企画・実施」が20.0%と最も多く、「地域の関係者(事業者, 行政, 市民等)との連携」が14.9%と次に多い。



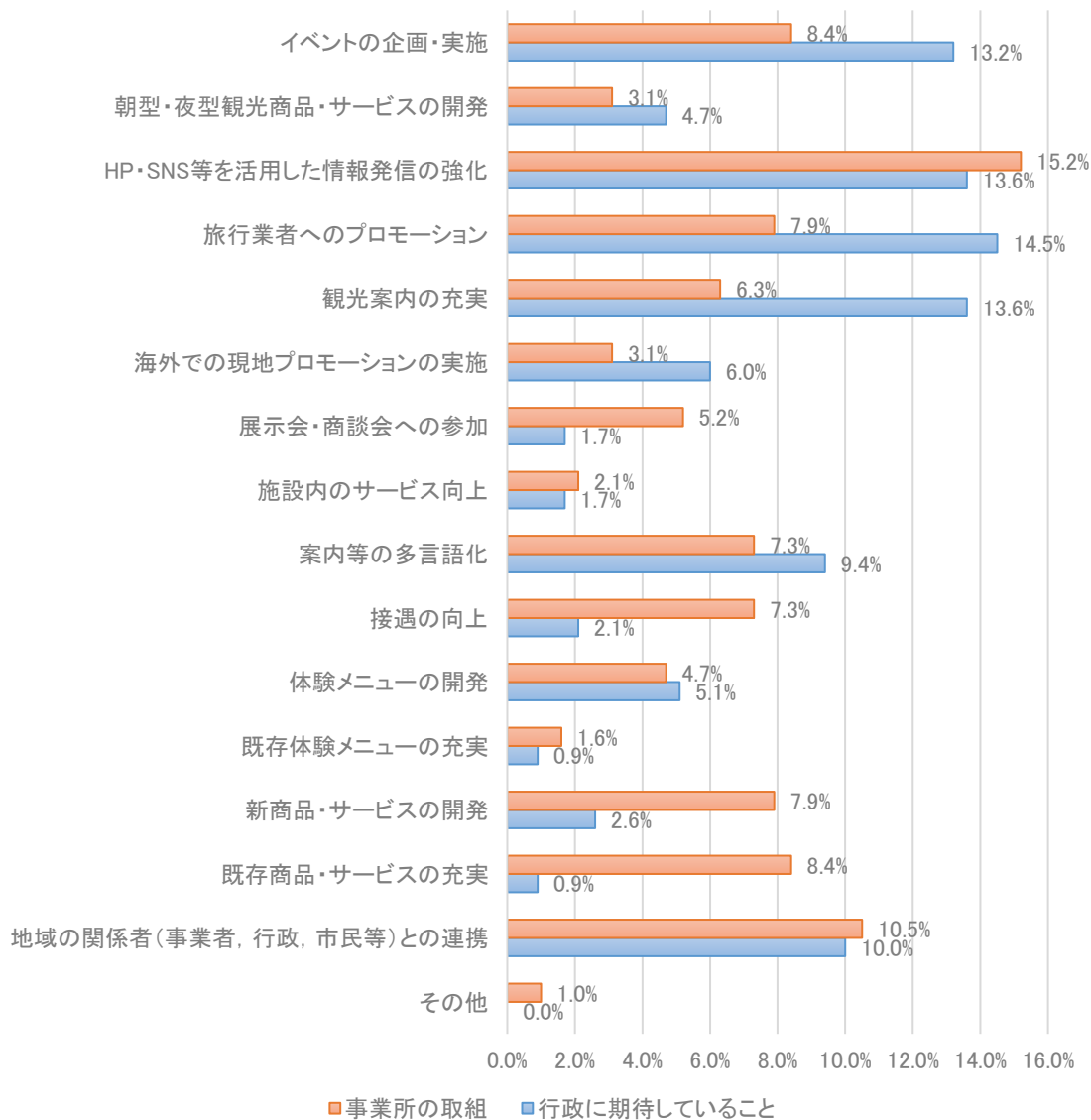
事業所の取組 n=213:MA

行政に期待していること n=235:MA

問4 国外(インバウンド)向けの観光振興において、貴事業所で取り組んでいること、行政に対して期待していることについて教えてください。

事業所で取り組まれていることとしては、「HP・SNS等を活用した情報発信の強化」が15.2%と最も多く、「地域の関係者(事業者、行政、市民等)との連携」が10.5%と次に多い。

また、行政に期待していることとしては、「旅行者へのプロモーション」が14.5%と最も多く、「HP・SNS等を活用した情報発信の強化」と「観光案内の充実」が13.6%と次に多い。



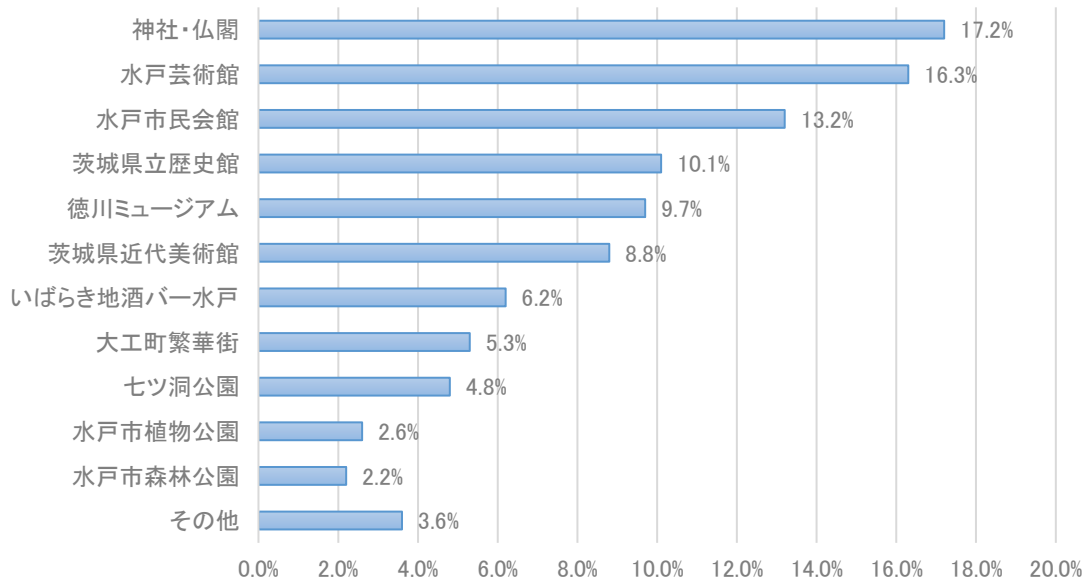
事業所の取組 n=191:MA

行政に期待すること n=235:MA

問5 観光客に今後おすすめしていくべき水戸市ならではの観光資源について教えてください。

(1)【スポット】

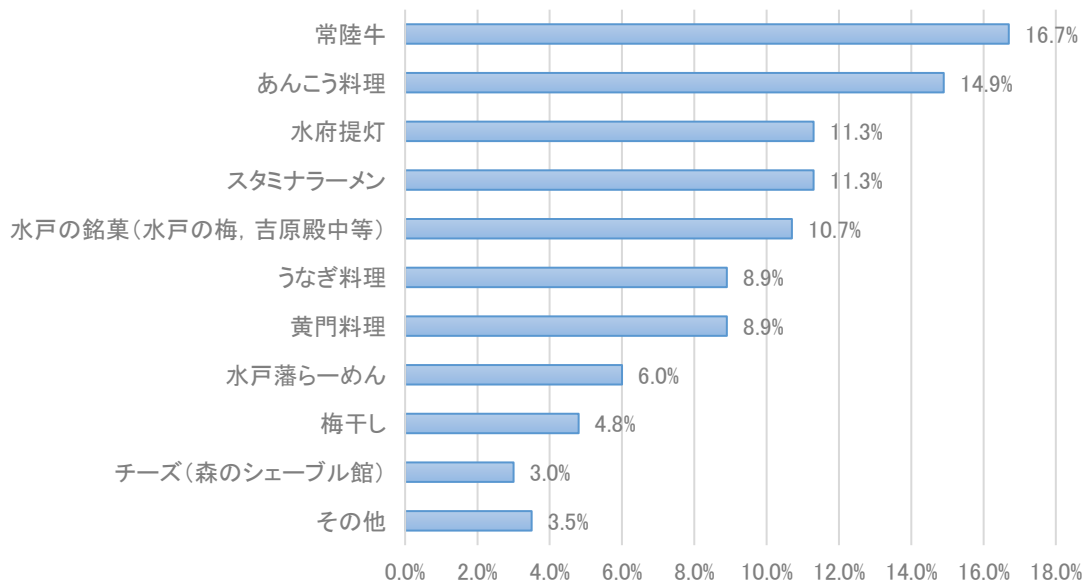
「神社・仏閣」が 17.2%と最も多く、「水戸芸術館」が 16.3%、「水戸市民会館」が 13.2%とこれに続く。



n=227:MA

(2)【物産】

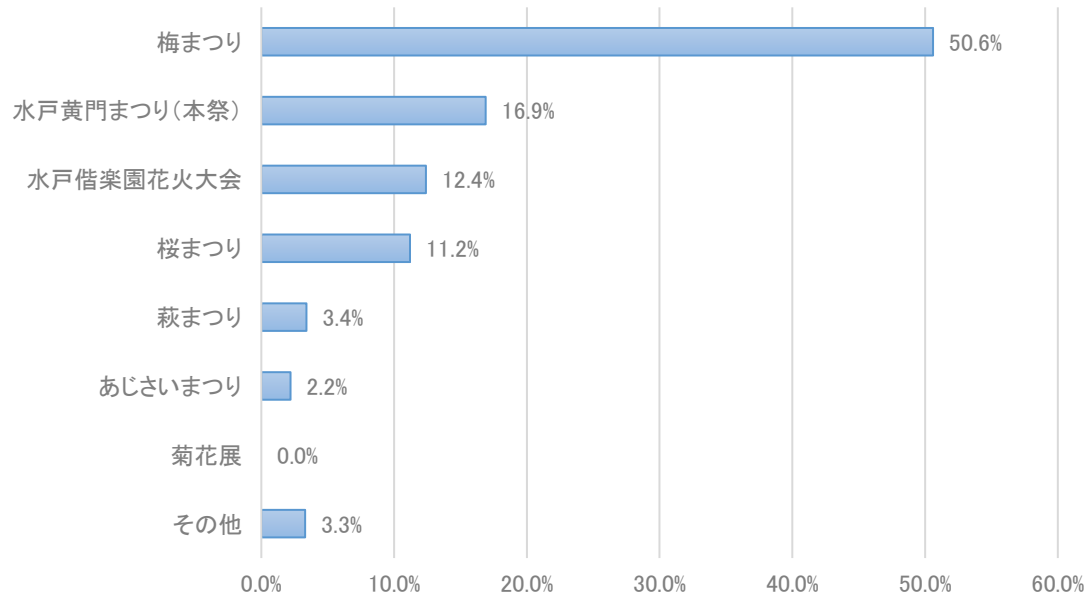
「常陸牛」が 16.7%と最も多く、「あんこう料理」が 14.9%、「水府提灯」、「スタミナラーメン」が 11.3%とこれに続く。



n=168:MA

問6(1) 選ばれる・稼げる観光まちづくりに向け、これまで以上に内容を充実させていくべき
水戸市のまつりについて教えてください。

「梅まつり」が50.6%と最も多く、「水戸黄門まつり(本祭)」が16.9%、「水戸偕楽園花火大会」が12.4%とこれに続く。



n=89:SA

問6(2) 問6(1)の回答について、選択した理由や充実させる内容について教えてください。
(自由記述)

	主な意見
梅まつり	若者も楽しめるような企画を充実させてほしい。
	宿泊につながるような施策を充実させたい。
	駐車場へのアクセスや会場と駐車場の動線の利便性の向上を図って、移動におけるストレスを与えない観光環境を充実させる。
水戸黄門まつり(本祭)	水府提灯をメインにした祭に変化させてきたが、さらに充実させるべき。
	国内外の観光客に体験してもらえるような施策を盛り込んで、更に宿泊してもらえるようなお祭りにする。
	奥の深い歴史を感じるものがあれば「滞在」「リピート」が望めると考える。
水戸借楽園花火大会	花火の後、市内を回遊滞在できるイベントを開催する。
	有料席増設したり、会場の雰囲気向上させる。
	打ち上げ数を増やすなど、規模を拡大させる。
桜まつり	千波湖を一周する桜は見事なのでそのライトアップを上から見られるようなイベントがあると良い。
	梅～桜と連続性を持たせて、借楽園の梅山(好文亭)と桜山の2つのポイントを1つに繋げた広報・イベントを実施する。
	春の桜山の雰囲気に外国の方にも楽しめるエキゾチックさがある。
萩まつり	より充実した広報活動ほか雰囲気づくりを県内外(市内でも)でするべき。

問7 これまで以上に観光客を呼び込むためには、どのような新規のイベントや取組があつたらいいと思いますか。(自由記述)

	主な意見
1	観光客が見るだけでなく、「参加する」「体験する」取組を導入すべき。
2	アニメ、映画などのメディア関連とのご当地企画があると面白い。(ただし、大洗のガールズアンドパンツァーとのタイアップのような継続して集客できるものに限る)
3	朝夕のコンテンツ。夜イベントを実施し、宿泊客、飲食客の増大を図る。
4	市民会館から泉町仲通りを通過して大工町に抜けるルートでのフードイベントの開催。
5	イベントの告知・発信の強化とアクセスの整備。
6	イベントではなく、通常が、日常が、素敵な街にする取組を時間をかけて少しずつ。
7	偕楽園を通年型の観光地とし、偕楽園とセットにして他の観光地にも足を運んでもらう。
8	偕楽園や千波湖などの観光コンテンツをユニークベニューとして民間活用やイベントに活用しやすい環境に整備してほしい。
9	本市ならではの歴史的財産を活用し、外国人を知的に満足させるだけの体験を水戸市内や周辺にできるだけ多く配置する。
10	観光ボランティアをさらに充実させて、水戸の良さを知っていただく。

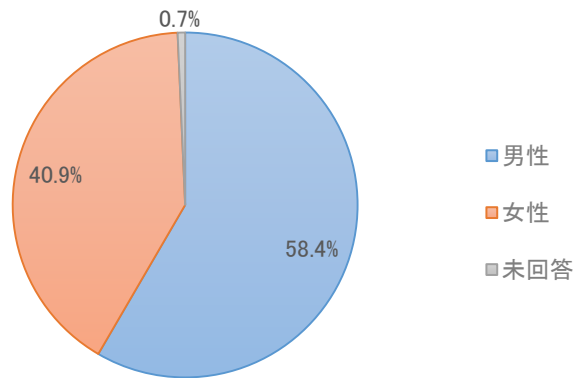
Ⅱ 市内大学生向け調査

(1) 調査概要

- 1 調査目的 若い世代の観光客を増やしていくため、旅行や「旅マエ」の情報収集の実態等を把握し、水戸市観光基本計画(第4次)の基礎資料とする。
- 2 調査期間 令和5年 11 月 21 日(火)～12 月7日(木)
- 3 調査方法 対面, Web(回答は, Web 又は直接提出)
- 4 調査対象者 市内大学生
- 5 回収件数 154 件
- 6 記号の定義
 - n := 有効回答の総数(標本サイズ)
 - SA:= 単一回答の設問
 - MA:= 複数回答の設問(nの後ろに「:SA」または「:MA」と示すことで、アンケートの設問形式を区別することとする。)

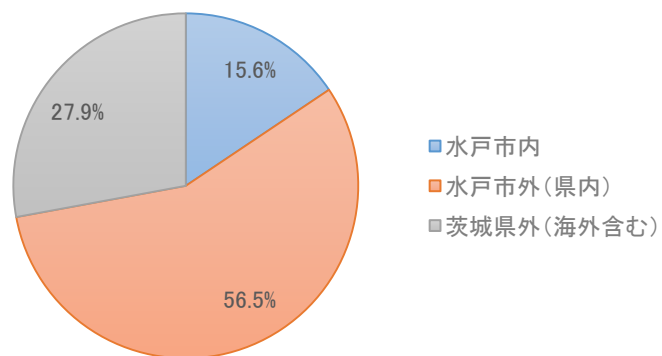
(2) 調査結果概要

問1 あなたの性別についてご回答ください。



n=154:SA

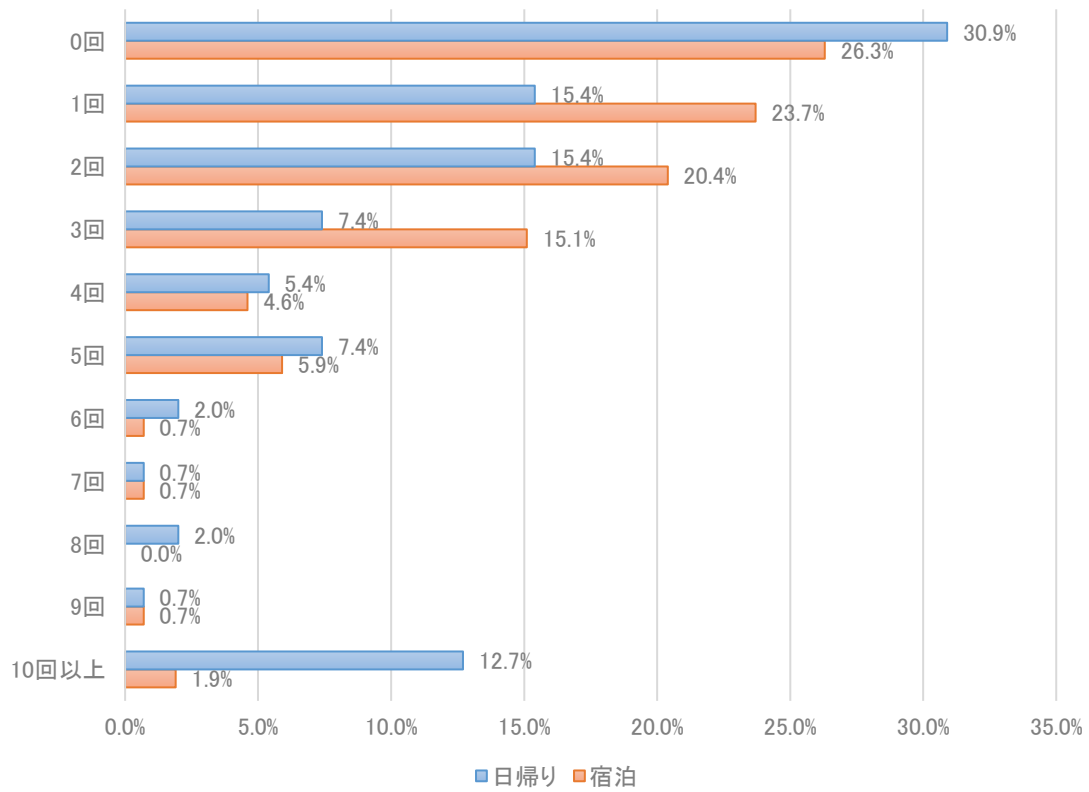
問2 あなたの出身地について教えてください。



n=154:SA

問3 あなたが直近1年間に観光目的で旅行した回数について教えてください。

日帰りで1回以上旅行している人は約 70%、宿泊で1回以上旅行している人は約 74%と、2/3以上の人が観光目的に旅行している。



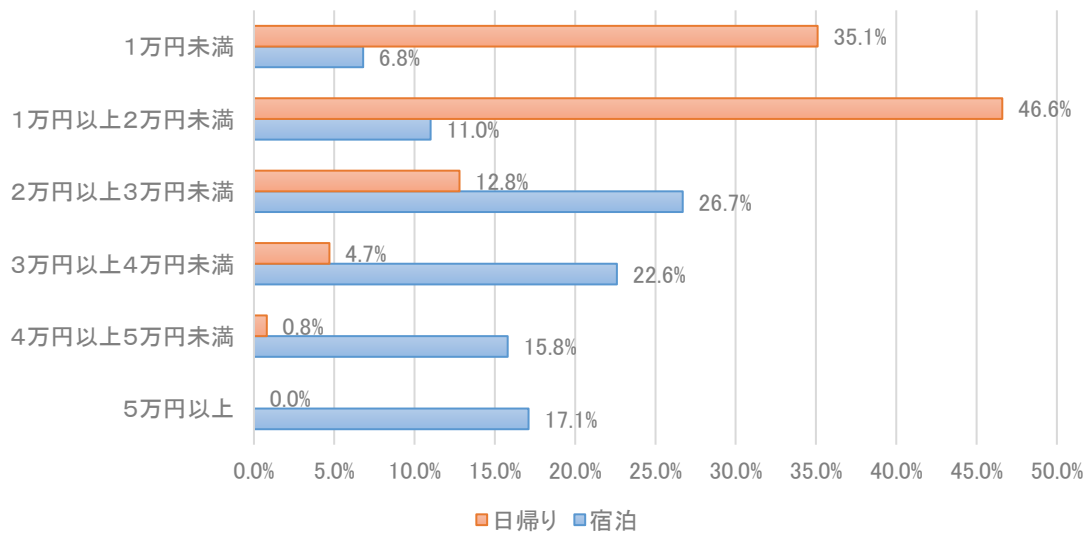
日帰り n=149:SA

宿泊 n=152:SA

問4 旅行1回あたりの費用(予算)について教えてください。

日帰り旅行の1回あたりの費用(予算)としては、「1万円以上2万円未満」が46.6%と最も多く、「1万円未満」が35.1%と次に多い。

また、宿泊旅行の1回あたりの費用(予算)としては、「2万円以上3万円未満」が26.7%と最も多く、「3万円以上4万円未満」が22.6%と次に多い。

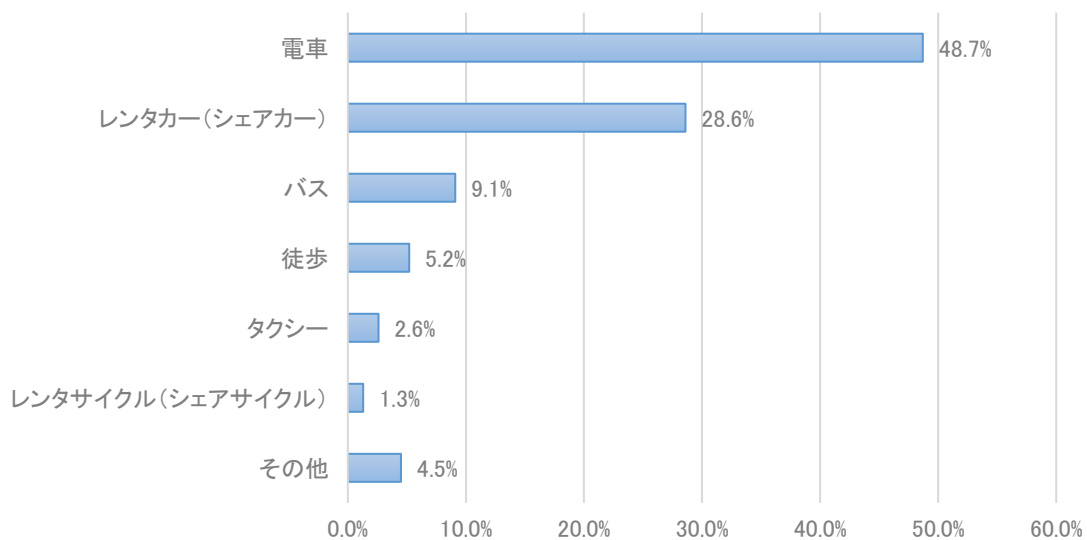


日帰り n=148:SA

宿泊 n=146:SA

問5 旅行先での移動手段として必要と思うものについて教えてください。

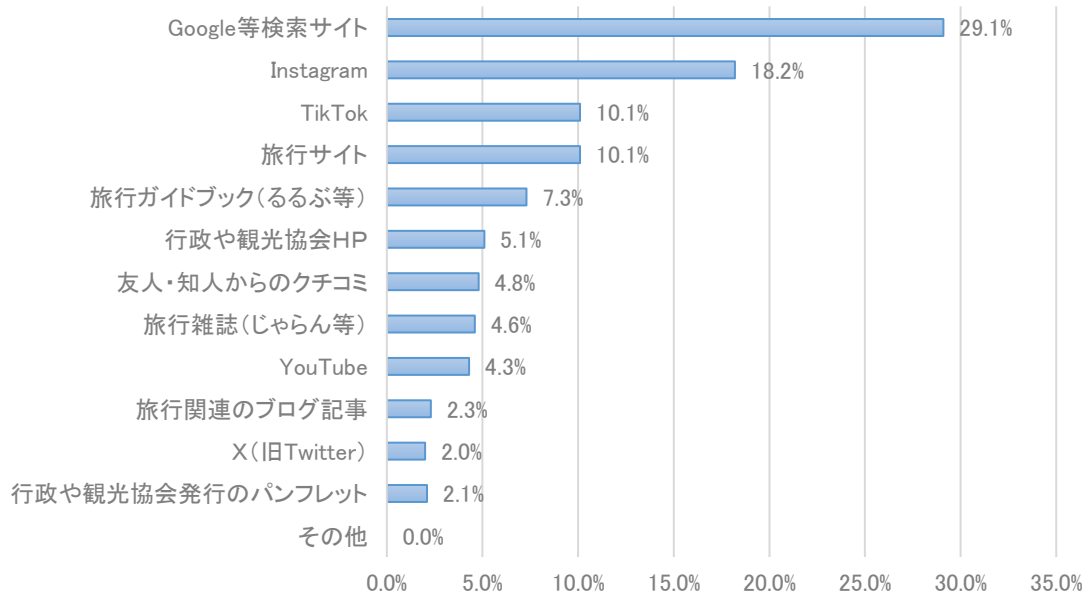
「電車」が48.7%と最も多く、「レンタカー(シェアカー)」が28.6%と次に多い。



n=154:SA

問6 旅行先の観光情報を調べる時に利用するものについて教えてください。

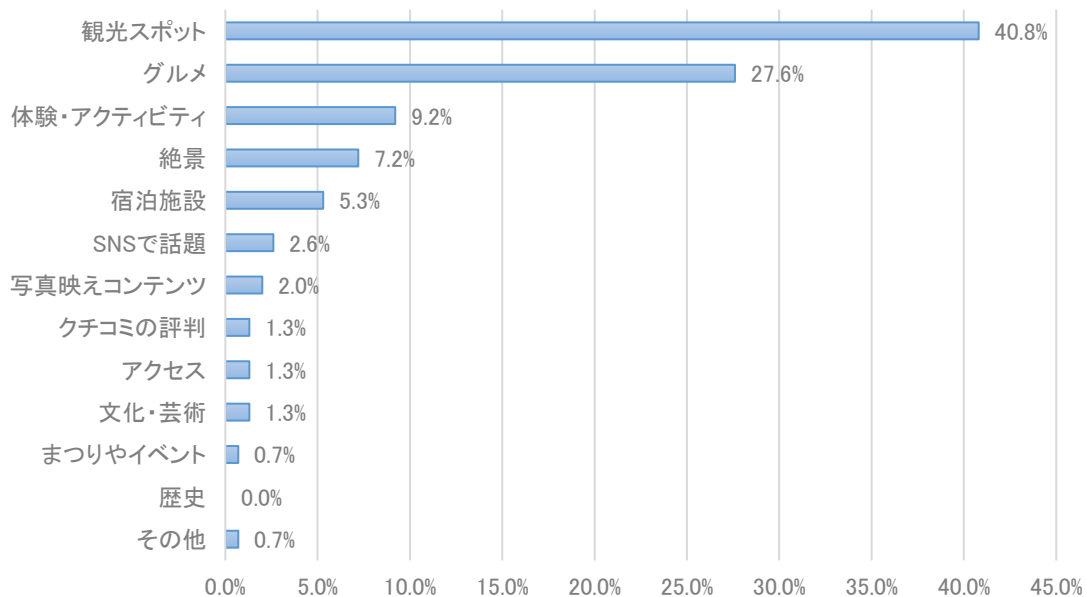
「Google 等検索サイト」が 29.1%と最も多く、「Instagram」が 18.2%、「TikTok」と「旅行サイト」が 10.1%とこれに続く。



n=395:MA

問7 旅行において重視するものについて教えてください。

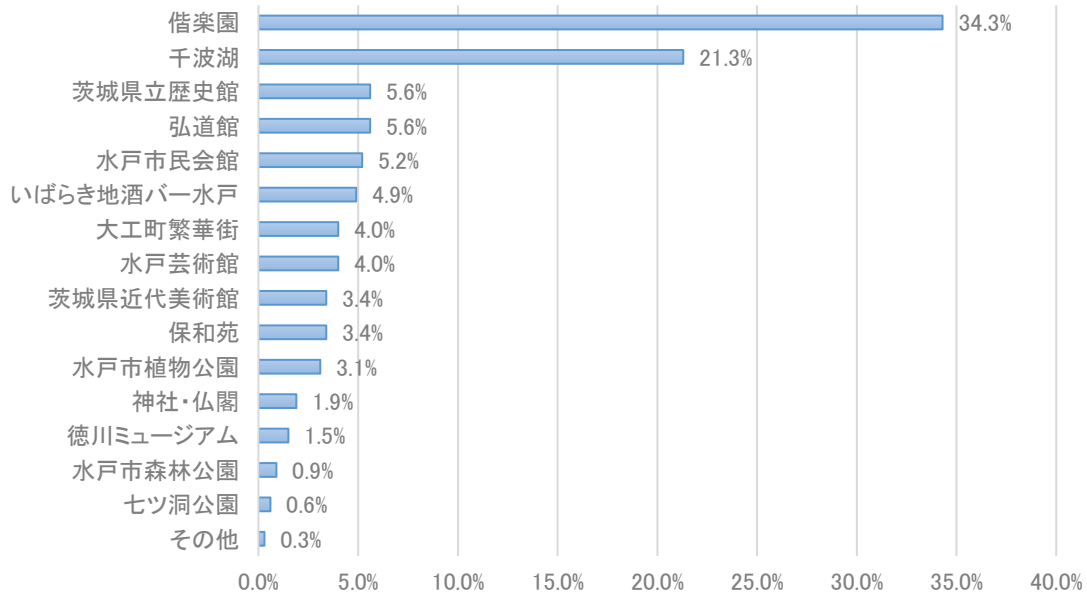
「観光スポット」が 40.8%と最も多く、「グルメ」が 27.6%と次に多い。



n=152:SA

問8 同世代におすすめの水戸市の観光スポットについて教えてください。

「偕楽園」が 34.3%と最も多く、「千波湖」が 21.3%と次に多い。



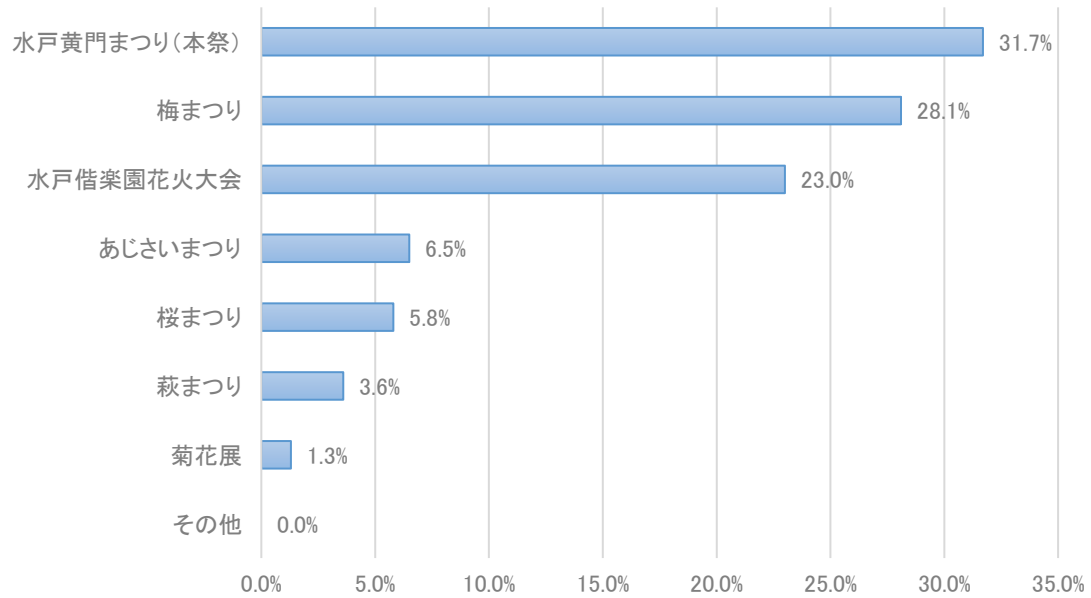
n=324:MA

問9 水戸市の特産品といえば納豆や梅のお菓子、提灯が有名ですが、同世代におすすめのお土産やグルメ、工芸品について教えてください。(自由記述)

	主な意見
1	ほしいも
2	吉原殿中
3	ご当地ラーメン(スタミナ, 水戸藩等)
4	メロン(メロンを用いたグルメ含む)
5	お酒(梅酒)

問 10(1) 水戸市では年間を通して様々なまつりを開催していますが、これまで以上に充実させるべきまつりについて教えてください。

「水戸黄門まつり(本祭)」が 31.7%と最も多く、「梅まつり」が 28.1%、「水戸偕楽園花火大会」が 23.0%とこれに続く。



n=139:SA

問 10(2) 問 10(1)の回答について、選択した理由や同世代を呼ぶために充実させるべき点について教えてください。(自由記述)

	主な意見
水戸黄門まつり(本祭)	伝統と若者のニーズを組み合わせることで充実させるべき。
	おみこしの迫力などを知ってもらいたい。
	水戸の中心街が活発だと街に元気をもたらすことができるし経済効果も高いと考える。
梅まつり	時期が学生の春休みだが、若者向けのイベントが少ないため。
	夜の梅のライトアップがとてもきれいだったので、開催のPRをSNSに投稿する。
	食べ歩きができるところがあるといい。
水戸借楽園花火大会	花火の打ち上げ数や演出も増やす。
	駐車場を増やしたり、バスや電車の本数を増やす。
	「花火」は若い世代に1番人気のあるコンテンツ。
あじさいまつり	写真映えするような食べ物やスポットの設置を行う。
桜まつり	ライトアップを豪華にする。
萩まつり	浴衣の着付け体験や提灯など、若者にとっての映えの片鱗が随所で見られたため。
菊花展	実際に体験した人が身近にいなかったことにより知らなかったため、充実させるべき。

問 11 さらに同世代の観光客を呼び込むためには、どのような新規のイベントや取組があったらいいと思いますか。(自由記述)

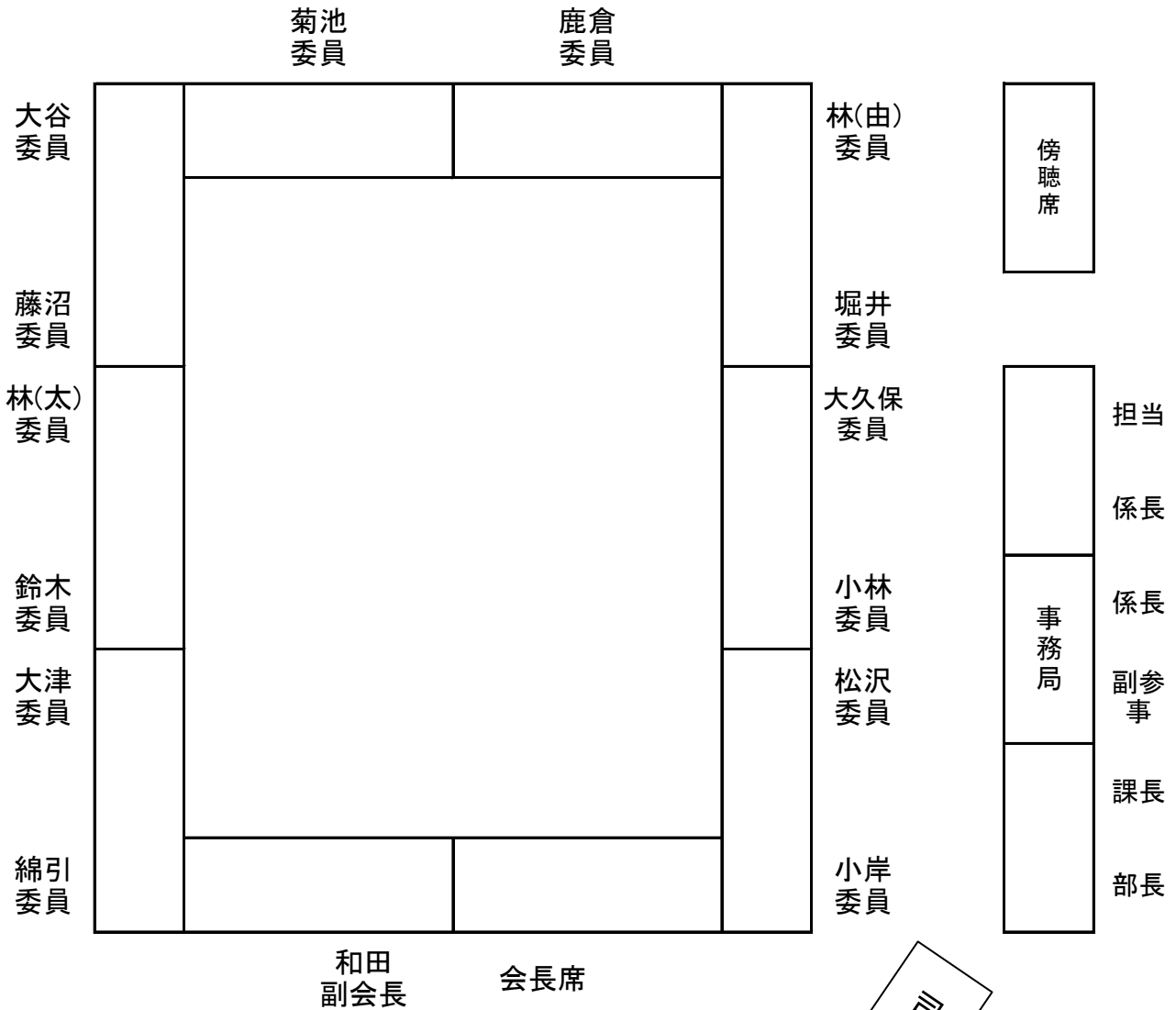
	主な意見
1	市内の飲食店などの様子を、地域住民や観光客が SNS で共有したいと思うような取り組みが必要だと思う。
2	芸能人や有名 YouTuber, TikToker などと協力し、水戸の魅力を発信していく。
3	フォトスポットとして映えるような場所を増やし、売り出していく。
4	体験と宿泊、グルメが一度に体験できるイベントがあるといいと思う。どれか1つのみ有名なことが多いと思う。
5	夜市等、夜も楽しめるイベントの開催。
6	漫画やアニメとのコラボ。
7	名物グルメやスイーツの開発。
8	歴史と芸術は他の地域と比べてアドバンテージがあるので、それらを強化すべき。
9	学割があると嬉しい。
10	通年で観光客を呼び込むためには、グルメが欠かせない。グルメマップの作成やイベントの開催。

今後のスケジュールについて

年度	月	水戸市観光基本計画（第4次）
令和5	2	・観光審議会開催（2/2）
	3	・政策会議（下旬）
令和6	4	・意見公募手続き（中旬～，約1か月）
	5	
	6	・庁議〔計画決定〕（月上旬）
	7	・委員会報告（月上旬） ・計画の公表・公開（中旬）

令和5年度水戸市観光審議会 席次

	関係者席 (随行)	
--	--------------	--



会 司

委員名簿

ワタヒキ ジンスケ 綿引 甚介	(一社)水戸観光コンベンション協会 会長
ワダ イクオ 和田 幾久郎	水戸商工会議所 副会頭
オオツ リウイチ 大津 亮一	水戸市議会 議長
スズキ ノリコ 鈴木 宣子	水戸市議会産業消防委員会 委員長
ハヤシ タイチ 林 太一	水戸観光土産品協会 会長
フジノマ タカシ 藤沼 貴士	茨城県ホテル旅館生活衛生同業組合 水戸支部 理事
オオタニ タケシ 大谷 剛史	(一社)日本旅行業協会関東支部 茨城県地区委員会 委員長
キクチ ミエ 菊池 美絵	東日本旅客鉄道(株)水戸支社 地域共創部地域連携ユニットマネージャー
シカクラ よし江 鹿倉 よし江	水戸女性会議 会長
ハヤシ ユカリ 林 由香里	水戸市地域女性団体連絡会 会長
ホリエ タケシゲ 堀井 武重	水戸市住みよいまちづくり推進協議会 会長
オオクボ ソウタ 大久保 惣太	(公社)水戸青年会議所 理事長
コバヤシ ノブミツ 小林 伸光	水戸大使の会 副会長兼事務局長
マツザワ ミキコ 松沢 実希子	公募委員
コギシ ユキオ 小岸 幸雄	公募委員

○水戸市観光審議会条例

平成4年9月22日

水戸市条例第58号

水戸市観光審議会条例（昭和43年水戸市条例第19号）の全部を改正する。

（設置）

第1条 観光開発の推進を図るため、水戸市観光審議会（以下「審議会」という。）を置く。

（所掌事項）

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 観光資源開発に関すること。
- (2) 広域観光に関すること。
- (3) 観光行事に関すること。
- (4) その他必要と認める事項に関すること。

（組織）

第3条 審議会は、関係機関、団体の役職員及び学識経験者のうちから、市長が委嘱する20人以内の委員をもって組織する。

（任期）

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠により委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第5条 審議会に、委員の互選により会長及び副会長を置く。

- 2 会長は、審議会の会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第6条 審議会は、会長が招集し、会長は、会議の議長となる。

- 2 審議会は、委員の2分の1以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（小委員会）

第7条 審議会に、特別の事項を調査するため小委員会を置くことができる。

- 2 小委員会の委員は、第3条に規定する委員のうちから、会長が指名する。
- 3 小委員会に、委員長及び副委員長を置く。
- 4 委員長及び副委員長は、小委員会の委員の互選により選出し、小委員会の運営については、前条の規定を準用する。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、産業経済部において行う。

(補則)

第9条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

付 則

この条例は、平成4年10月1日から施行する。